

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日  
平成 29 年 5 月 9 日

事務事業名		消防団運営・後援会支援事業				事業区分		担当		
						新規/継続	継続	事務事業No.	030101000675	
		政策体系上の位置付け				単独/補助	単独	所属課	020801	
政策体系	総合計画の施策名	0301 防災・消防対策の充実				主要事業		防災課		
	政策名	03 安全安心な暮らしのまちづくり				市長マニフェスト				
	施策名	01 防災・消防対策の充実				未来PJ事業		グループ		
	手段名	01 ①消防防災意識の向上				合併建設計画事業		防災		
		財務会計上の位置付け				事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計			
	01	09	01	02	01	00	非常備消防事業			
法令根拠							単年度繰返し (平成18年度~)			
						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入				

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

手 段	①事務事業の概要(事務事業の全体像)		②担当者が行う業務の内容・やり方・手順	
	消防団の適正な運営と団員相互の連携強化を図るため、会議、研修会及び訓練を開催するとともに、各種表彰事業をとおして団員の士気の高揚を図る。また、団長交際事務として外部機関との連絡調整及び交際費の適正な支出を行う。消防団後援会は地区又は分団別に19組織結成されており(岩瀬地区17、大和地区1、真壁地区1)、後援会費の支給等により円滑な分団運営を図るためその事務を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹部会議開催事務</li> <li>・幹部研修開催事務</li> <li>・夏季訓練、林野火災防御訓練、服装点検及び機械器具点検、冬季訓練、文化財防火訓練開催事務</li> <li>・普通救命講習会開催事務</li> <li>・火災予防パレード、火災予防キャンペーン開催事務</li> <li>・表彰上申事務</li> <li>・団長交際事務</li> <li>・後援会費支給事務</li> </ul>	

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議及び研修開催事務</li> <li>・訓練開催事務</li> <li>・普通救命講習会開催事務</li> <li>・火災予防パレード及びキャンペーン開催事務</li> <li>・表彰上申事務</li> <li>・団長交際事務</li> <li>・後援会費支給事務</li> </ul>	会議、研修会及び訓練実施回数	回	14.00	14.00	14.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
消防団員	消防団員数	人	554.00	558.00	557.00	560.00	560.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
消防団員の連携強化と士気の高揚	住みやすい住環境であると答えた人の割合	%	48.20	45.80	46.00	47.00	48.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移

投入量	事業費	財源内訳	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)	期間限定総投入量
量	費	国庫支出金	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0
		地方債	0	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0
		一般財源	922	951	1,155	0
	事業費計(A)	922	951	1,155	0	
人件費	費	正規職員従事人数	2.00人	1.00人	1.00人	
		述べ業務時間	701.00	480.40	480.40	
		人件費計(B)	2,050	1,405	1,405	
トータルコスト(A)+(B)			2,972	2,356	2,560	

事業費の内訳	29年度事業費 実績(千円)			30年度事業費 予算(千円)			
	09 旅費	731		09 旅費	773		
	10 交際費	60		10 交際費	200		
	11 需用費	160		11 需用費	182		
		合計	951			合計	1,155

(4) 当該年度の実施内容

30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要事業</li> <li>・市長マニフェスト</li> <li>・未来PJ事業</li> <li>・合併建設計画事業</li> </ul>		

事務事業名	消防団運営・後援会支援事業	事務事業No.	30101000675	所属課	防災課
-------	---------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	消防団設置以来運営事業を継続して行っている。岩瀬及び大和地区には合併前から後援会が組織されており、そのまま合併後も引き継いだものである。真壁地区は平成20年4月に桜川市消防団真壁地区消防協会の名称で後援会が発足した。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	日頃から会議や訓練等を行っていることで、今後起こりうる大規模災害において消防団の活躍に期待が寄せられている。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	現状維持

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	消防団員相互の連携強化は防災消防体制の強化に繋がるため、市の政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	防災消防体制の強化は市の役割であるため、市が消防団員相互の連携強化のための事業を行うことは妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	繰り返し訓練を重ねることによって消防団員の資質が向上していくものであり、毎年退団者と入団者がいる消防団では、現状の成果を維持することが重要である。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	消防団員の士気が下がり、防災消防体制の弱体化に繋がる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名	<input type="checkbox"/> 余地がない	消防団員の連携強化と士気の高揚が期待できる類似事業はないため、統廃合や連携はできない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	食糧費は訓練時の飲み物代等の必要最低限のものであり、団長交際費は適正な支出を行っているため、これ以上の削減余地はない。また、業務時間の大半は会議や訓練等の準備であり、削減余地はない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	防災消防体制の強化はすべての市民が受益者となるため、特定の受益者はいない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																							
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	会議は訓練や研修会等について協議する場として重要なものであり、より活発な協議ができるよう工夫していくべきである。その上で、訓練や研修会等においては消防団員の連携強化と士気の高揚がより効果的に図られ防災消防体制の強化に繋がるよう、内容についてさらに検討を重ねていく必要がある。																							
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																							
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(6) 事務事業優先度評価結果																								
成果優先度評価結果 ④																								
コスト削減優先度評価結果 ⑧																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>